

各関係機関・団体長 様

愛媛県病害虫防除所長

病害虫防除技術情報（第1号）の送付について

このことについて、次のとおりお知らせしますので、御参照の上、防除指導方よろしく願いいたします。

記

情報の内容 クリにおけるナラウススジハマキホソガ (*Povolnya querci*) の多発生

1 発生地域 愛媛県全域

2 発生経過

平成31年4月下旬～令和元年5月上旬に、県内複数のクリ栽培農家より葉巻被害が発生しているとの報告を受け、現地調査を行った結果、県下全域のクリ産地で葉巻被害が認められた。現地で採取した幼虫を羽化させ、九州大学大学院の広渡俊哉教授に種の同定を依頼した結果、ナラウススジハマキホソガであるとの回答があった。

本種は、文献上、本県での分布の記録はないが、四国を含め近隣県において発生の記録があり、本県でも従来から分布しているものとみられる。ただし、クリでの多発生は、本県では確認されていない。

3 他県でのクリでの発生状況等

平成23年に岐阜県で発生が確認された以外の発生記録はない。

4 生態

北海道、本州、南西諸島及び韓国に分布し、クリの他クヌギやコナラ等に寄生する。ふ化幼虫は葉裏の組織に潜入して食害し、その後脱出して1枚の葉を先端から内側へ巻いてその中で食害する。幼虫は成熟すると葉巻内から移動し、葉脈間をつづり、その中で蛹化する。発生世代数、越冬場所、越冬形態など詳細については不明であるが、岐阜県の調査では次のとおり。越冬世代成虫は4月中旬頃から発生し、クリへの産卵は展葉期の5月上旬頃にピークとなる。幼虫による葉巻は5～6月にかけて発生し、第1世代のみによるとされている。第1世代成虫の発生は6月中下旬に確認される。

5 本県でのクリの葉巻被害等

4月下旬頃から見え始め、5月下旬頃までは増加したが、6月中旬には新たな葉巻は確認されなくなった。品種を問わず県下全域で確認され、特に、中・南予の山間部で多い傾向であった。また、クリのほかに、アベマキ、クヌギ、コナラ、ミズナラでも寄生が確認された。多発樹では葉面積が健全樹と比較して数割程度減少しており果実肥大への影響は不明であるが、実害は低いものと推察される。

6 防除対策

現在のところ、本種に登録のある薬剤はなく既発生の他県では本種を対象とした防除は行っていない。



写真1 クリの葉巻被害 (遠景)



写真2 クリの葉巻被害 (拡大)



写真3 幼虫



写真4 蛹



写真5 成虫